

## 骨関節結核の病巣廓清術に依る血液学的変化に就いて

京都大学医学部整形外科学教室 (主任 近藤鋭矢教授)

助手 大塚 哲也

(本稿の要旨は昭和26年1月、2の京都外科集談会、及び4月の第24回整形外科学会総会の宿題報告共同研究中に、次いで8月の第8回結核外科集談会に於いて述べた)。

### 1) 緒 言

従来骨関節結核病巣に外科的侵襲を試みる事は特殊の場合を除いては禁忌とされて居たが、1944年 Waksman により発見されたストレプトマイシン (以下「ストマイ」と略す) の出現はペニシリンの併用と相待つて積極的に病巣を廓清し、而も良好なる成績を納め得るに至つた。(①, ②, ③, ④)

さて結核症に対する「ストマイ」応用例の血液学的変化に関する報告は数多く見られるが、骨関節結核症に対するそれは比輕的少く、(⑤, ⑥) 殊に手術的侵襲を加えたものに関する血液学的経過に就いての報告は殆んど見当らない。(⑦)

そこで私は京大整形外科学教室に於ける本症患者に就いて主として病巣廓清術前後の血液学的経過を追究し興味ある所見を得たので茲に報告する。

### 2) 検査症例及び検査方法

#### I) 症 例

症例は本学整形外科入院の骨関節結核患者22名で、其の内訳は胸椎カリエス1, 腰椎カリエス2, 腰仙椎カリエス1, 仙腸関節結核2, 以上に股関節結核を合併したもの1, 股, 膝, 足関節結核各3, 大转子結核1, 風棘症1, 肋骨周囲結核, 肩胛関節結核, 上膊骨頭部結核, 腕関節結核の各1例である。

#### II) 検査方法

検血, 赤沈に就いては原則として週1回早朝空腹時を選び、検血は耳朶より傳られた血液に就いて、赤血球数, 血色素量, 色素係数, 白血球数及びその百分率を調べた。

百分率に関しては好中球及び好酸球共に核により分類し、リン巴球は大, 中, 小に、單球は大單, 移行型に分けて算出したが、此處では後述の表の如く簡略にした。

好塩基球, 形質細胞も全例全期間を通じてその出現が極めて僅少の爲、これには深くふれず、又細胞形骸に就いても同様の処置をとつた。

なお Mommsen, Freifilcl 氏顆粒等の病的白血球顆粒に就いても述べない。(⑧)

核推移は杉山氏平均核数に就いて調べ、好中球 (以下「N<sub>2</sub>」と略す) とリン巴球 (以下「Lg」と略す) との関係は N/Lg によつた。

赤血球数, 白血球数はトーマ計算板を使用、血色素量はザーリ氏血色素計にて測定し、塗抹標本はメタノール固定後ギームザ液で染色し、200に対する平均値として百分率を算出した。

赤沈値に関しては色々説があるが(⑨, ⑩) 私は Westergreen 法に従い、Katz 氏の中等値を選んだ。(⑪)

なお「ストマイ」の赤沈に及ぼす影響に就いては、投與当初は1時促進し、次いで速かに遅延の傾向を示すと云う説⑨, 左程影響しないと云う説⑩等があるが、私の場合には健述の如くこれ等を殆んど考慮する必要はなかつた。又女子に於ける月経は赤沈に殆んど影響しないと云う説もある。(⑫)

以上の諸検査は術前より退院時迄とした。後述の表は術前及び術後第1, 2, 3週, 次いで5, 7週, 退院時を掲げた。但し経過の短い例では第3週で既に退院して居るため、第5, 7週の結果は大分不確實となつた事は免れない。

赤沈は6週迄毎週のをかがけ次いで退院時とした。

### 3) 検査成績

一般の傾向をうかがうため全例の局均値をとつてその経過を追つてみた。(表, II)

#### A) 赤血球系並血沈の變化

##### I) 赤血球數

術前全例にその数の減少(即ち貧血)を証明し(表 I, V)に示す如く赤血球數 200 万代 2 例, 400 万代 4 例で他は全て 300 万代であつた。風棘症の如き例でも 420 万の如き貧血を証明した事は注目すべきである。

然らば退院時にはどの様になつて居るかを調べてみると、いづれもよく回復して赤血球數が 300 万代に留つたものは 5 例, 他は全て 400 万以上に回復して居る。

さて術後経過を仔細に観察すると、第 1 週には手術に依る影響が強く現はれ、貧血は更に高度となるが、これは一過性で第 2 週に於ては既に術前値に復し、爾後は回復の一途を辿り、退院時には上述の如く入院時の状態を凌駕して居る。

##### II) 血色素量

これも赤血球と同様その減少を術前全例に就いて証明した。(表, I, V) そのうち 60% 代 3 例を証明したが、退院時には 70% 代の回復に留つたものは僅かに 3 例で、他は全て 80% 以上になつて居る。

術後の経過は赤血球數の變化と平行的である。

##### III) 色素係數

全平均によると大体正色素性貧血<sup>④</sup>である。術後の経過は赤血球數, 血色素量が略々平行的に変動するため、色素係數は従つて著変を示さず、第 3 週迄稍々増加の道を進むが、尙正色素性貧血の範囲を出て居ない。

##### IV) 赤沈値

術前何れも大体促進の傾向を示して居る(表, I, II)

術後の経過も貧血と略々同様、第 1 週に急激に促進するが、併しこれは一過性で略々 3 乃至 4 週にして術前値に回復して来る。

別に病巣廓清術例<sup>56</sup>に就いて赤沈値のみを調べた所では、平均して術前値に復するには軀幹は 6 週、四肢では 3 週、更に正常値に復するには前者は 4 カ月、後者は 2 カ月を要し、軀幹に於いては四肢よりも約 2 倍の日数を要する事が分つた。

要之術前全例に貧血を証明し、且赤沈値は大体促進の傾向を示す事が分つたが、(表, V) に示す如く、この傾向は瘻孔、膿瘍を有するものが、然らざるものよりも著明であつた。

即ち膿瘍、瘻孔の自淨作用は血液学的にみても個体に非常なる犠牲を強ひるものである事が分つた。これは教室の手島の肝臟機能検査成績と一致して居る。

##### V) 貧血, 赤沈値回復の二経過

術後一應術前値に復した赤血球數, 血色素量の変化は二通りの道を進んで居る。

即ちその一つはそのまま回復をつづけ正常値に限りなく近づくものと、(表, VI, (イ)) 他は一時的に回復して居る様に見せかけながら絶えず動揺して仲々正常値に復そうとしないものとのである。(表, VI, (ロ)) 後者の如き例は軀幹例の一部及び病巣廓清術を伴はない、或は不完全なそれに終つた「ロバートソン, ラパール」氏手術例に見られた。此等の例では赤沈値も動揺を示し、従つて全体としての恢

復経過は他のものに較べて著しく長い。(表, VI) ⑩

### IX) 軀幹と四肢との比較

(表, III, IV) を較べてみると赤血球数, 血色素量, 赤沈値を総合判定するに, 一般に軀幹の方が術前, 術後を通じて四肢に比し障碍度が大きい。併し退院時には両者共よく恢復して殆んど正常に近い成績が得られて居るのは注目に値する。

即ち軀幹は手術による影響も大で, 回復も遅いが, 血液学的にみると日時の長引くだけで結果をしては四肢と同様良好な結果が得られる。

要之赤血球数, 血色素量, 赤沈値の血液学的変化はその術後経過の良否をよく反映するものである。且つ操作が簡単で相当の正確度を持つ点に於いて推奨に値すると思う。

又軀幹, 四肢のいずれに於ても病巣廓清術の効果は, 恢復に遅速はあれ血液学的に略々同様に良好である。

### B) 白血球系の變化

#### I) 白血球数

特に変化を認めないが, 術前一般に其の数も少く, 或例では4000代の白血球数の減少を認めたものもあるが, 何れも退院時には殆んど正常値に近付いて居る。

術後第1週に於いてはやはり手術の影響が現はれ, その数は更に減少するが, これは略々第3週に於て略々術前値に復する。そしてその後漸次増加正常に近付く。併し貧血の回復に比すれば稍々遅れる様である。

#### II) 好中球 (「N」)

「N」は術前に於て増加の傾向を示し, 重症例ではこれが70%を越えるものも見られた, 併し退院時には略々正常値に復して居る。

術後第1, 2, 3週と減少の一途を辿るが, 第5週に一時増加, 第7週で再び減少, 退院時には上述の如く正常に復して居る。

#### III) 後骨髓球, 桿状球

術前全例に於て其の増加を証明したが, 退院時には可成り減少して居る。併し正常値に比すれば未だ相当の距りがある。

術後の経過は「N」と略々平行的である。

全期間を通じて骨髓球以上の幼若型は全く証明されなかつた。なほ後骨髓球も退院時には殆んど影をひそめて居た。

#### IV) 杉山氏平均核数

上述のII) III) からでも分る様に術前には全て杉山氏平均核数の左方移動を認めた。最高1.88, 最低1.23, 平均して1.58, であるが, 退院時には平均1.70とその引方の度を減じて居る。

併し「N」が退院時に於て略々正常値に復して居るのに, 平均核数の恢復が悪いのは, 後骨髓球, 桿状球の数の減少度が尙正常値に及ばない為であろう。

術後第1週にはその左方移動は一過性に更に高度となるが, 爾後は漸次恢復して退院時に至る。

要之白血球数には余り著変を証明しない。尤も術前「N」は正常より多少増加し, その構成因子中特に後骨髓球, 桿状球に幾分の増加が見られる。且つ術後の経過は略々平行的であるが, 「N」が比較的早く正常値に復する傾向がある。従つて平均核数も術前は全く左方移動であるが, 退院時にはかな

り恢復して、余程正常値に近付いて来る。

それ故杉山氏平均核数の経過を追う事は、予後判定の上に役立つものと思われる。

#### V) 軀幹と四肢との比較

白血球数, 「N」後骨髓球, 桿状球及び平均核数より総合判定するに、軀幹は四肢に比し術前の障程度も大きく、手術の影響も大であるが、退院時には結局略々同程度の恢復が見られる。(表, III, IV)

#### VI) 淋巴球(「Ty」)

これは術前「N」の増加の爲、比較的減少を示して居る。併し退院時には略々正常値に復して居る。術後の経過大体「N」と対照的である。

#### VII) 大, 中淋巴球

術後第3週迄一時的な軽度の増加を見るが、その後は多少減少し、全般的に見て大きな動揺を示さない様である。

#### VIII) N/Lg

II) 及びVI) との関係により成立するものであるから、従つて術前はその値が大である。併し術後は「N」及び「Ty」の変動が略々平行的であるため、大体同様の値であるが、強いて云えば、幾分小になる傾向が見られ、退院時には略々正常値に近くなつて来る。

#### IX) 單球

單球は何れも正常範囲を出ないが、大, 中「Ty」の増減と大体平行する様に思はれる。

要之「Lg」は「N」と大体対照的に変動する。従つてN/Lgも大体同様の値を示す。大, 中「Lg」, 單球は著変を示さない。なほN/Lgは平均核数と共に予後判定に役立つように思う。

#### X (軀幹と四肢との比較)

淋巴球, 大, 中淋巴球, N/Lg, 單球を(表, III, IV)より総合判定するに、これも術前, 術後共に軀幹の疾患の際蒙る影響は四肢に於けるより大であるが、退院時に於ては略々同程度に恢復する。

#### XI) 好酸球(「E」)

術前に於ける「ストマイ」投與量は平均5gであり、その際の「E」は5.4%となつて居る。併し術後は増加の一途を辿り、最高31.5%に達した例もある。「ストマイ」による「E」の増多的傾向は手術等に影響される事が少いものと考えられる。併しこの際「E」が多いものには「ストマイ」効果の挙つたものが多く見られたが、此の程度は必ずしも「ストマイ」の効果に比例して居たと考える事は出来なかつた。軀幹, 四肢兩者の間に著明な差異は見られなかつた。(表, III, IV)

#### C) 非結核性骨關節疾患に手術侵襲を加えた場合の血液學的變化

対照として椎間軟首ヘルニア, 坐骨神経痛に椎間切除術を施行した例, その他切骨術の症例等を選んだ。

I) 赤血球数, 血色素量, 赤沈値, 白血球数, 術後第1週に著明な貧血及び赤沈値の促進を認めるが、何れも第3週には正常値に復して居る。白血球数も貧血と略々同様の變化をとる。(表, VII)

これを骨關節結核とその経過を比較して見ると、兩者共略々同様の経過を辿り、第3週迄の變化は唯数值に多少のズレがあるに過ぎない事を知る。従つて第3週迄の變化は大体手術の影響と見做すべきものであろう。なほ赤沈値も「マイシン」の影響より以上に手術に依るそれの方が大なるため、上述の

如く殆んど「マイシン」の赤沈に及ぼす影響は考慮しなくてもよいと思はれる。

II) 好中球, 後骨髓球, 桿状球, 平均核数, 「N」は術後第1週に増加を示し, 第2週に減少, 次いで第3週には術前よりもかへつて増加して居る。

後骨髓球, 桿状球は「N」と略々平行的に変化するが, 第3週には術前と殆んど同程度に恢復する。従つて平均核数は第1週に左方移動を示すのみで正常値に復して居る。

これを骨関節結核症の経過と比較してみると, 骨関節結核症では術前既に「N」の増加がみられ, 術後第1, 2, 3, 週と減少を辿り, 退院時には正常値に近付くが, 対照例では術後第1週で増加, 退院時には更に術前よりも増加して居る。

後骨髓球, 桿状球は両者共「N」と平行的に変化するが, 退院時に結核症の方は数が多い。従つて平均核数も術後第1週に一時左方移動の度を強めるが, 後にはその度を減ずる。併し結核性のものでは退院時にも尙左方移動傾向を保持する。対照では既に第2週で正常に復して居る。

III) 淋巴球, N/Lg, 大, 中淋巴球及び單球

「Lg」は「N」と対照的に変化して居るが, 第2週に於てその増加の度が強い。従つてN/Lgは第1週には「N」の増加のため稍々大となり, 次いで第2週には小, 第3週には術前値に復す。

大, 中「Lg」の変動は少い。單球も殆んど変化を認めない。

以上を骨関節結核症と比較してみると, 両者いづれも「Lg」は「N」と略々対照的に変動を示すが, N/Lgの変動に於ては骨関節結核症は術後略々安定し, 対照の変動は稍々大である。尤も骨関節結核症の術前N/Lgは大, 術後は小である点も又異なる。

IV) 好酸球(「E」)

術前「E」の増多症を認めたか(蛔虫症による), 術後急激に減少を示して居る。この種の「E」の増多は手術等の影響でたちまち逆轉してしまう事が知られた。

骨関節結核症における「ストマイ」による「E」の増多症はより強力なものであろう。

要之手術による血液学的影響は両者いづれも略々第3週にて去るが, 結核性疾患ではその回復が非常に遅延する。

なほ上述の骨関節結核症の全平均と対照例との経過をグラフで表はすと(表, VIII, IX)の如くである。

#### 4) 総括及び考按

以上の検査成績をまとめてみると, 術前全例に貧血を証明, 且赤沈値も大体促進の傾向を示して居るが, これは瘻孔, 膿瘍を有するもの程この傾向が大である。即ち瘻孔, 膿瘍に於ける自浄作用は個体にかかりの犠牲を強いて居るものようである。

さて白血球数も術前稍々減少を示し, その百分率に就いても「N」の増加, 特にその構成因子のうち後骨髓球, 桿状球の増加がみられ, 従つて平均核数の左方移動, 「N」の増加に伴う「Ty」の比較的減少, 従つてN/Lyの値の増大と云う具合に血液学的に見て明かに変調な状態を示して居る。かかる状態にある骨関節結核症患者に「ストマイ」併用病巣廓清術を施行した結果は如何様であろうか。成る程術後第1週より3週にかけては明かに手術の影響が現はれ, 特に第1週には術前より更に悪化して居る様に見える。然るに第3週を極期として以後は漸次回復の道を辿り, 退院時には全血液像が略々正常値に漸く回復し安定して居る。この事は軀幹も四肢も結果は同一であるが, 只前者に於てはその個体の蒙る影響が幾分大であり, その経過が四肢に比し長いと云う点に多少の差異が存するに過ぎないと思はれる。

以上の事より「ストマイ」併用病巣廓清術を血液学的見地から見れば, その生体に與える障碍は一過性であり, 決して甚大な悪影響を及ぼす程度のものではない。むしろ術後に於ては良好なる結果が

得られる事が知られた。而も手術が積極的で充分行はれた場合には、恢復が著明であると言えると思う。勿論私の成績は初期効果に属するものであるから遠隔成績の判定に就いては今後更に数年間の観察を必要とする事は当然である。

なほ「ストマイ」併用病巣廓清術の血液像に就いて論ずる場合には、次の諸点に考慮を拂ふ必要があるのは勿論である。即ち、

I) 骨関節結核自体の血液像 ⑤

II) 更にこれに「ストマイ」使用の場合 ⑥

III) これらの患者の合併する他の臓器結核、殊に肺結核との関連性に於てこれに対する「ストマイ」使用の影響 ⑧

IV) 更に手術による影響 ⑯, ⑳

以上の諸点であろう。

我々の「ストマイ」併用病巣廓清術は、大体病勢の鎮靜期なるものを選び、且肺結核の重症例等は問題とならないし、なほ又「ストマイ」の影響よりも手術による影響の方が更に大であつたため、術前においては諸家の成績と大体一致して居るが、術後の成績は上述の如く諸家の個々の成績とは異つて來て居る。

さて私は赤血球数、血色素量、赤沈値、杉山氏平均核数、N/Lg等の血液学的変化はその術後経過の良否をよく反映するものであると述べてきたが、その中でも特に前3者は操作が簡便にして相当の正確度を持つ点に於て臨床上推奨に値するものと思う。

又檢血上の変化は本症に於ては比較的緩慢であるから、10~14日の間隔でも大差はないものと思はれる、併し赤沈は週1回定期的に行う必要がある。

尚術後一旦術前値迄恢復した(大体3週後)赤血球数、血色素量及び赤沈値が平行的且漸造的に改善せられるか否かは経過観察上特に必要であつて、それが乱れる場合には一應警戒の必要があるものと思われる。(表、VI、(ロ))

## 5) 結 語

以上22例の「ストマイ」併用病巣廓清術を施行した例に就いて血液学的影響を調べた所、次の結果が得られた。

I) 術前全患者に貧血を証明し、且赤沈質の促進の傾向を認めたが、これは特に膿瘍、瘻孔を有するもの程その傾向が強い。

II) 白血球数は著変を示さぬが、それでも数が稍々少い。

III) 好中球、後骨髓球、桿狀球は術前増加を示す。

IV) 杉山氏平均核数は従つて左方移動を示す。

V) 淋巴球は好中球の増加のため比較的減少を示す。

VI) N/Lgは従つて術前に於て大である。

VII) 以上の病的状態は手術的影響に依り更に一過性に悪化するが、略々第3週後上の回復し、退院時は全て正常値に漸く恢復する。

VIII) 單球、大、中「Lg」は著変を示さない。

IX) 好酸球は術後増加の一途を辿り、手術等に影響される事が少いものと考えられる。

X) 膿瘍、瘻孔による自給作用は個体に大なる犠牲を強いて居る。

XI) 病巣廓清術(「ストマイ」作用)は決して危険なものではなくむしろ色好なる結果が得られる。而もそれは充分積極的に行う程よい。

XII) 軀幹、四肢共に結果から言えば、何れも同様によく恢復する。前者は手術の影響が大であるの

と経過の長い点に於て異なる。

XIII) 赤血球数, 血色系量, 赤沈値, 杉山氏平均核数及びN/Lgは予後併定に役立つ。そのうち前三者は操作が簡便且相当正確度を持つ点に於て推奨に値する。

終りに臨み御指導と御校閲を賜つた恩師近藤鋭矢教授及び御教示を載いた山田憲吾講師に深く感謝する。

### 引用文献

- 1) David M. Bosworth, M. P., A. Della pietra. M. D., Richard F. Farrell, M. D., : Streptomycin in Tuberculous Bone and Joint Lesions with mitei infection and Sinuses J. B, J. S. 103. Jcn 1950.
- 2) Alan De Forest Smithe M. P. and Horace Yu. M. P. : Streptomycin Combined With Surgergin the Treatment of Bone and Joint Tuberculosis J. A. M. A. 1. Jan. 7, 1950.
- 3) 片山: 骨関節結核の化学療法殊にストレプトマイシンの使用に関する意見  
臨床 4巻9号 27頁 (昭 26 )
- 4) 矢形, 島田, 森山, 大石: 骨関節結核症に対する保存療法と Pe, SM 使用前後の手術療法との推計学的観察  
京都外科集談会 (昭 26. 3)
- 5) 永井, 藤本, 菊池: 骨関節結核の病態生理  
第24回日本整形外科学会総会 (昭 26. 4)
- 6) 片山, 今里, 鈴木, 北川, 武田, 山本, 紫芝: 骨関節結核の化学療法  
第24回日本整形外科学会総会 (昭 26. 4)
- 7) 柏木, 松田, 上野: 骨関節結核の手術療法  
第24回日本整形外科学会総会 (昭 26. 4)
- 8) 永井, 湯村: 骨関節結核と病的白血球顆粒  
日本整形外科学会雑誌23巻1号 (昭 24. 4)
- 9) 佐羽: 赤血球沈液反応への一つの反省  
治療32巻5号, 455 (77) (昭 25. 5)
- 10) 守屋: アメリカで用いられて居る赤沈法  
医学 3巻4号 (昭 22.10)
- 11) 金井, 杉田: 臨床検査法提要
- 12) 八竹: ストレプトマイシンとツベルクリン反応, 「ストマイ」と赤血球沈降速度  
The Journal of anti biotics Vol. Tv. No. 1, Jw 1951
- 13) 二宮: 月経周期に於ける赤血球沈降反応に関する如見補遺  
医学, Vol. VIII. No. 6. (昭 25. 6)
- 14) 小宮: 貧血の分類  
血液討議会報告第一輯 (1948)
- 15) 手島: 骨関節結核症における肝臓機能について特に手術による影響  
京都外科集談会 (昭 26. 3)
- 16) 近藤: 骨関節結核の治療方針  
肺結核 (昭 25. 2)
- 17) Daus. J. D., C. W. Anderson and A. E. Laudg : Streptomycin toxicitg  
Annals of western medicine and Surgery. 2. 245. (1948)
- 18) 脇坂他12名: ストレプトマイシンの結核患者血液像に及ぼす影響に就て (昭 26 )
- 19) 近藤: 胸廓成形術に於ける血液知見補遺  
臨床外科 4巻6号 (昭 24. 6)
- 20) 長石: 肋膜外充填術特に肋膜外合成樹脂球充填術  
肺結核 (昭 25. 2)

### その他の参考文献

- 1) Anton, Mer teus and Rolf Burgl : The Present statuo of the chemotherapy of Tbc, With Conteben a substance of thiosemiocarbazone Series  
The American Review of Tbc Jan No. 1. 1950
- 2) 原: ストレプトマイシンの用い方についての考察  
治療 32巻5号, 411, (昭 25, 5)
- 3) 勝沼: 血液像並びに血液諸反応より窺たる肺結核の予後  
結核12. 457 (昭 9 )
- 4) 加藤: 血液学研究法  
(1950)
- 5) 菊池: 内科臨床と血液  
第46回日本内科学会報告 (1949) P 259
- 6) 小宮, 古庄: 臨床血液図説
- 7) 柏木: 骨関節結核の手術的療法  
臨床と研究 28巻4号, 36, (昭 26. 4)
- 8) 三木, 猪狩: 骨関節結核と肺結核  
日本臨床結核 7巻3号, 102, (昭 33. 3)
- 9) 三木, 永井: 骨関節結核の手術的療法の適應  
抗酸菌病研究雑誌 2巻2号, 47 (昭 22.12)

(表I) 骨關節結核患者血液像

	姓	年齢	性	診 断 名	赤 血 球 数 (万)							血 色 素 量							色	
					前	1	2	3	5	7	退	前	1	2	3	5	7	退	前	1
1	山本	18	♂	腰仙椎カリエス (右臀部瘻孔)	329	294	338	×	×	483	483	72	62	75	×	×	98	98	1.16	1.0
2	江口	25	♀	胸椎カリエス (Ⅶ)	334	316	347	354	399	425	440	75	65	78	82	87	85	70	1.13	1.0
3	川上	36	♂	腰椎カリエス (Ⅲ)(膿瘍)	314	285	271	346	341	351	423	67	57	55	61	63	75	84	1.06	1.0
4	久我	24	♂	腰椎カリエス (Ⅳ)	414	371	428	422	520	491	495	87	77	93	95	95	110	103	1.04	1.0
5	田中	26	♂	仙腸関節結核 (右)(臀部瘻孔)	319	296	306	357	330	440	425	78	57	60	75	75	75	92	1.23	0.9
6	岩本	15	♀	仙腸関節結核 (左)(大转子部瘻孔)	295	×	×	307	×	342	342	70	×	×	75	×	77	77	1.18	×
7	山本	43	♂	1)股関節結核(左) 2)仙腸関節結核(左) 3)旧腰椎カリエス	387	291	430	437	438	435	440	85	60	75	85	90	95	98	1.11	1.0
8	饗庭	11	♀	股関節結核 (左)	340	303	×	419	447	439	460	65	62	×	73	80	85	85	0.95	1.0
9	安田	7	♂	股関節結核 (右)(瘻孔)	320	300	×	357	443	×	454	75	64	×	75	95	×	88	1.17	1.0
10	土井	13	♂	股関節結核 (右)(臀部瘻孔)	354	312	354	388	399	430	475	75	68	75	75	70	75	85	1.07	1.0
11	中森	22	♀	膝関節結核 (右)	406	289	350	360	392	423	450	80	65	77	78	86	86	90	0.99	1.0
12	中村	31	♂	膝関節結核 (左)(瘻孔)	268	140	250	293	330	378	393	60	30	50	55	75	83	87	1.13	1.0
13	前川	19	♂	膝関節結核 (左)	405	365	391	424	411	462	493	88	75	87	85	90	90	100	1.08	1.0
14	坂田	21	♀	大转子結核 (右)(瘻孔)	385	327	330	351	437 (退)	×	437	80	78	80	83	95 (退)	×	95	1.03	1.0
15	金田	17	♀	足関節結核 (左)	382	370	394	436 (退)	×	×	436	82	76	78	85 (退)	×	×	85	1.07	1.0
16	片山	20	♀	足関節結核 (右)(瘻孔)	384	378	387	410 (退)	×	×	410	87	67	82	90 (退)	×	×	90	1.12	0.9
17	日比	19	♀	足関節結核 (左)(瘻孔)	340	308	338	348	392 (退)	×	392	70	58	60	65	80 (退)	×	80	1.02	0.9
18	尾田	16	♂	風棘症(Ⅰ趾) (右)(瘻孔)	420	×	474	495 (退)	×	×	495	90	×	100	95 (退)	×	×	95	1.07	×
19	秋田	30	♀	肋骨周囲結核 (右)(膿瘍)	327	280	×	371 (退)	×	×	371	79	65	×	81 (退)	×	×	81	1.05	1.0
20	立道	25	♀	肩胛関節結核 (左)(瘻孔)	344	303	368	417	376	398	400	78	65	83	88	78	89	82	1.04	1.0
21	小牧	12	♀	上膊骨頭部結核 (左)(瘻孔)	330	×	×	365	×	×	436	72	×	×	80	×	×	83	1.09	×
22	寺田	16	♂	腕関節結核 (右)	338	318	338	×	357	426	399	78	70	76	×	80	75	79	1.16	1.0



色素係數							白血球數 (百)							好中球總數							淋巴球總數							
前	1	2	3	5	7	退	前	1	2	3	5	7	退	前	1	2	3	5	7	退	前	1	2	3	5	7	退	
81	1.16	1.06	1.10	×	×	1.02	1.02	63	48	50	×	×	68	68	75.0	53.0	45.0	×	×	46.5	46.5	21.5	29.0	33.0	×	×	42.0	42.
70	1.13	1.03	1.13	1.15	1.10	0.98	0.97	40	84	86	70	50	70	76	57.0	45.5	66.5	55.0	50.5	52.0	45.0	36.5	51.0	27.5	39.0	35.0	37.5	44.
44	1.06	1.00	1.01	0.88	0.92	1.07	0.98	46	51	36	50	62	62	66	58.0	46.0	46.5	60.0	53.0	46.5	64.5	20.5	24.5	34.0	28.0	23.0	28.0	20.
31	1.04	1.04	1.09	1.13	0.93	1.12	1.04	77	50	60	74	66	66	76	60.0	71.0	71.5	58.5	71.0	62.5	70.0	33.0	27.0	20.5	29.0	21.0	30.5	25.
22	1.23	0.96	0.98	1.05	1.13	1.13	1.08	56	36	50	44	52	71	80	73.5	68.0	55.0	45.0	47.0	57.0	64.0	18.5	24.5	35.5	37.5	36.5	27.0	26.
77	1.18	×	×	1.12	×	0.98	0.98	69	×	×	70	×	44	44	51.5	×	×	26.5	×	49.5	49.5	31.5	×	×	41.5	×	30.0	30.
88	1.11	1.03	0.87	0.97	1.03	1.09	1.11	50	48	56	66	68	68	70	61.0	76.5	70.0	52.0	59.0	45.5	61.5	26.0	16.0	21.5	21.0	21.5	23.5	20.
55	0.95	1.01	×	0.88	0.89	0.97	0.92	58	36	×	56	54	70	65	53.5	47.0	×	52.5	52.0	42.0	62.5	29.0	40.5	×	40.0	31.0	37.0	27.
88	1.17	1.06	×	1.05	1.06	×	0.97	60	52	×	40	50	×	70	42.0	33.5	×	31.5	49.5	×	47.0	52.0	57.5	×	59.5	41.5	×	45.
55	1.07	1.09	1.05	0.96	0.88	0.87	0.89	60	52	50	58	59	60	64	54.5	44.0	44.0	38.0	54.0	46.5	51.0	40.0	48.0	45.0	44.5	33.0	39.5	29.
00	0.99	1.12	1.10	1.08	1.10	1.02	1.00	70	50	62	60	61	68	71	65.5	44.0	67.0	68.5	75.0	62.0	57.0	25.5	40.5	21.0	27.0	17.0	22.0	22.
77	1.13	1.07	1.00	0.93	1.13	1.10	1.11	78	74	56	54	48	52	71	72.5	62.5	50.5	56.5	46.0	56.0	81.0	13.5	23.5	39.0	25.0	32.5	39.5	14.
00	1.08	1.02	1.11	1.00	1.09	0.97	1.02	60	50	56	74	68	60	70	58.5	64.5	63.5	60.0	68.0	56.0	66.0	27.0	31.0	28.0	24.0	27.5	30.0	25.
55	1.03	1.20	1.21	1.18	1.09	×	1.09	52	68	72	72	82	×	82	52.5	69.5	49.0	52.0	58.5	×	58.5	40.5	24.5	44.5	40.5	33.0	×	33.
55	1.07	1.02	1.00	0.98	×	×	0.98	56	54	50	54	×	×	54	61.0	57.5	54.0	47.0	×	×	47.0	28.0	36.0	36.5	37.5	×	×	37.
00	1.12	0.89	1.06	1.09	×	×	1.09	64	50	54	72	×	×	72	61.5	44.5	59.5	49.5	×	×	49.5	28.5	46.5	32.5	36.5	×	×	36.
30	1.02	0.95	0.89	0.94	1.02	×	1.02	72	52	50	58	70	×	70	54.5	53.0	30.0	44.0	47.0	×	47.0	24.5	29.0	45.0	38.0	34.0	×	34.
55	1.07	×	1.06	1.06	×	×	1.06	56	×	71	84	×	×	84	60.0	×	52.0	69.0	×	×	69.0	33.5	×	40.5	27.5	×	×	27.
31	1.05	1.16	×	1.09	×	×	1.09	52	52	×	50	×	×	50	62.5	67.5	×	40.0	×	×	40.0	31.0	24.5	×	43.0	×	×	43.
32	1.04	1.08	1.15	1.06	1.04	1.12	1.02	58	60	54	60	54	81	72	68.0	55.5	42.0	56.0	54.0	54.0	59.0	21.0	27.0	38.0	26.0	30.0	25.0	21.
33	1.09	×	×	1.09	×	×	0.95	82	×	×	70	×	×	54	68.5	×	×	48.5	×	×	50.5	26.5	×	×	45.5	×	×	40.
9	1.16	1.11	1.13	×	1.11	0.88	1.00	56	48	62	×	52	48	52	50.5	55.5	37.0	×	43.0	41.0	38.0	43.5	38.5	51.5	×	45.0	46.0	49.

球 総 数				杉 山 氏 平 均 核 数								メ タ, 桿 状 総 数								大, 中 淋 総 数								エ オ		
3	5	7	退	前	1	2	3	5	7	退	前	1	2	3	5	7	退	前	1	2	3	5	7	退	前	1	2			
0	x	x	42.0	42.0	1.42	1.77	1.73	x	x	1.66	1.66	4.90	23.5	21.0	x	x	24.0	24.0	9.0	27.0	28.0	x	x	9.0	9.0	3.0	8.0	6.0		
39.0	35.0	37.5	44.0	1.50	1.46	1.48	1.70	1.59	1.52	1.40	33.0	25.5	37.0	25.0	27.0	27.5	29.0	27.5	5.5	7.0	13.0	14.0	13.5	22.0	1.0	1.0	2.5			
28.0	23.0	28.0	20.0	1.36	1.23	1.23	1.28	1.34	1.69	1.93	39.5	27.5	36.0	47.0	35.0	19.5	18.0	13.5	18.0	8.0	10.0	8.5	7.5	8.0	13.0	17.0	14.0			
29.0	21.0	30.5	25.0	1.45	1.53	2.02	1.65	1.65	1.57	1.52	27.5	36.5	20.0	25.5	35.5	31.0	36.5	12.5	8.0	11.0	10.0	4.0	3.0	4.0	3.0	2.0	2.0			
37.5	36.5	27.0	26.0	1.69	1.50	1.49	1.41	1.83	1.85	1.82	33.0	41.0	31.5	31.0	17.0	20.0	25.0	7.5	11.0	11.5	19.5	20.0	10.0	10.0	5.0	2.5	6.5			
41.5	x	30.0	30.0	1.65	x	x	1.47	x	2.01	2.01	24.0	x	x	10.5	x	14.5	14.5	9.0	x	x	24.0	x	2.5	2.5	13.0	x	x			
21.0	21.5	23.5	20.5	1.67	1.26	1.34	1.45	1.57	1.68	1.63	28.5	56.0	47.0	30.5	29.5	21.5	31.0	15.5	6.5	4.5	5.5	8.5	1.5	3.5	6.0	0.5	2.0			
40.0	31.0	37.0	27.5	1.41	1.23	x	1.39	1.49	1.46	1.88	35.5	36.0	x	33.5	31.0	26.0	20.5	17.0	10.5	x	25.5	8.0	18.0	9.5	8.0	7.5	x			
59.5	41.5	x	45.0	1.45	1.64	x	2.11	1.60	x	1.62	27.0	21.5	x	7.5	23.5	x	25.0	6.5	11.5	x	14.0	9.0	x	14.0	1.5	5.0	x			
44.5	33.0	39.5	29.5	1.55	1.27	1.48	1.31	1.36	1.47	1.66	30.0	39.5	29.5	26.5	36.0	27.5	26.5	9.0	15.0	11.5	6.5	6.5	17.5	8.5	2.5	4.5	9.0			
27.0	17.0	22.0	22.0	1.84	1.54	2.22	1.50	2.21	1.83	1.91	22.0	22.5	16.0	31.5	29.0	24.0	13.0	2.5	12.0	6.0	9.0	6.0	11.0	8.0	7.0	9.5	6.0			
25.0	32.5	39.5	14.0	1.37	1.62	1.49	1.35	1.51	1.44	1.83	48.5	30.0	30.5	39.0	24.0	29.0	32.0	6.5	10.5	15.5	13.5	17.0	12.0	7.0	5.5	9.5	7.5			
24.0	27.5	30.0	25.5	1.83	1.53	1.58	1.81	1.41	1.54	1.62	21.0	34.5	33.5	21.0	44.5	30.0	31.5	10.0	18.0	17.0	15.5	8.0	11.0	11.5	3.5	2.0	3.0			
40.5	33.0	x	33.0	1.59	2.18	1.73	1.74	1.62	x	1.62	23.5	24.0	19.5	19.5	29.0	x	29.0	13.0	6.0	9.5	15.5	9.5	x	9.5	2.5	2.0	2.5			
37.5	x	x	37.5	1.45	1.61	1.71	1.32	x	x	1.32	32.5	29.5	23.5	32.0	x	x	32.0	9.5	12.5	15.5	6.5	x	x	6.5	2.5	5.0	5.0			
36.5	x	x	36.5	1.47	1.23	1.72	1.49	x	x	1.49	34.5	30.0	27.0	28.0	x	x	28.0	13.5	10.0	7.0	7.0	x	x	7.0	6.0	8.0	4.5			
38.0	34.0	x	34.0	1.85	1.54	1.39	1.86	1.77	x	1.77	23.0	27.5	21.0	13.5	18.5	x	18.5	13.5	8.5	10.0	13.0	10.5	x	10.5	16.5	14.0	22.0			
27.5	x	x	27.5	2.02	x	1.96	1.92	x	x	1.92	28.0	x	18.5	36.5	x	x	36.5	11.5	x	18.5	5.5	x	x	5.5	4.0	x	2.5			
43.0	x	x	43.0	1.33	1.58	x	1.62	x	x	1.62	45.5	34.5	x	20.0	x	x	20.0	13.0	16.5	x	25.0	x	x	25.0	1.0	2.5	x			
26.0	30.0	25.0	21.0	1.37	1.58	1.54	1.88	1.59	1.50	1.71	45.0	29.0	21.0	19.5	26.0	27.0	25.0	4.0	8.0	7.0	10.0	9.0	9.0	9.0	10.0	13.5	14.5			
45.5	x	x	40.0	1.84	x	x	1.79	x	x	1.91	26.0	x	x	16.5	x	x	17.5	13.0	x	x	10.5	x	x	19.5	0.5	x	x			
5	x	45.0	46.0	49.0	1.66	1.58	1.77	x	1.74	1.73	1.69	25.0	25.5	14.5	x	18.0	22.0	15.5	24.5	16.5	18.0	x	29.2	22.5	11.5	3.0	13.0	5.0		

淋 総 数					エ オ ジ ン 総 数							赤 沈 値							単 球 総 数							
3	5	7	退	前	1	2	3	5	7	退	前	1	2	3	4	5	6	退	前	1	2	3	5	7	退	
0	×	×	9.0	9.0	3.0	8.0	6.0	×	×	4.5	4.5	42	53	34	15	18	4	2	2	0.5	6.0	13.0	×	×	7.0	7.0
0	13.0	14.0	13.5	22.0	1.0	1.0	2.5	2.0	9.5	5.5	5.0	18	84	75	53	69	31	12	7	5.5	2.0	3.5	4.5	3.5	5.0	5.0
0	10.0	8.5	7.5	8.0	13.0	17.0	14.0	10.0	21.0	31.5	10.0	30	58	24	18	19	30	13	10	8.5	7.0	4.5	2.0	1.5	4.0	5.5
0	10.0	4.0	3.0	4.0	3.0	2.0	2.0	5.0	4.5	5.0	4.5	13	43	30	27	34	31	10	10	3.0	4.5	5.0	6.0	2.5	2.0	1.5
5	19.5	20.0	10.0	10.0	5.0	2.5	6.5	8.0	7.5	2.0	5.0	55	73	66	45	14	13	10	6	3.0	5.0	4.5	9.5	9.0	7.0	5.0
×	24.0	×	2.5	2.5	13.0	×	×	26.0	×	13.5	13.5	80	115	94	87	54	48	21	12	4.0	×	×	5.5	×	×	3.5
5	5.5	8.5	1.5	3.5	6.0	0.5	2.0	24.5	17.5	27.5	16.5	38	79	35	25	24	12	12	12	7.0	6.0	4.5	2.5	1.5	3.5	1.5
×	25.5	8.0	18.0	9.5	8.0	7.5	×	9.5	15.0	18.5	7.0	16	79	48	13	8	15	16	6	8.5	6.0	×	3.0	2.0	2.5	4.0
×	14.0	9.0	×	14.0	1.5	5.0	×	6.0	6.0	×	4.5	33	60	39	15	10	8	6	5	1.0	3.5	×	5.0	3.0	×	3.5
5	6.5	6.5	17.5	8.5	2.5	4.5	9.0	13.5	7.5	7.0	14.0	19	34	26	19	8	9	6	6	4.0	3.5	2.0	2.0	4.5	6.5	5.0
0	9.0	6.0	11.0	8.0	7.0	9.5	6.0	5.0	4.0	10.0	15.0	32	96	61	73	31	28	15	14	2.0	4.0	5.5	5.0	4.0	4.0	6.0
5	13.5	17.0	12.0	7.0	5.5	9.5	7.5	9.5	14.0	7.5	2.0	73	116	90	44	57	72	37	20	5.0	3.0	3.0	9.0	5.5	5.0	3.0
0	15.5	8.0	11.0	11.5	3.5	2.0	3.0	6.0	4.5	11.5	5.0	8	60	44	19	13	5	6	4	8.5	1.5	4.5	5.5	1.5	2.5	3.5
0	15.5	9.5	×	9.5	2.5	2.0	2.5	7.0	2.5	×	2.5	36	89	60	40	×	43	×	43	3.0	4.0	5.0	5.0	6.5	×	6.5
5	6.5	×	×	6.5	2.5	5.0	5.0	11.5	×	×	11.5	31	50	28	26	20	×	×	20	7.0	1.5	4.5	3.0	×	×	3.0
0	7.0	×	×	7.0	6.0	8.0	4.5	9.5	×	×	9.5	6	13	11	8	×	16	×	16	2.0	1.0	3.5	2.0	×	×	2.0
0	13.0	10.5	×	10.5	16.5	14.0	22.0	12.5	16.5	×	16.5	12	43	16	11	13	8	×	8	4.5	3.5	1.5	5.5	2.5	×	2.5
5	5.5	×	×	5.5	4.0	×	2.5	0.5	×	×	0.5	3	×	1	2	4	×	×	4	2.5	×	4.5	3.0	×	×	3.0
×	25.0	×	×	25.0	1.0	2.5	×	3.0	×	×	3.0	37	56	×	43	×	×	×	43	5.5	6.0	1.5	14.0	×	×	14.0
0	10.0	9.0	9.0	9.0	10.0	13.5	14.5	14.0	11.5	18.0	14.0	23	38	65	66	81	50	41	25	0.5	4.0	4.5	4.0	4.0	3.0	5.0
×	10.5	×	×	19.5	0.5	×	×	2.5	×	×	3.0	10	52	19	12	9	×	5	6	4.5	×	×	4.0	×	×	5.0
8.0	×	29.2	22.5	11.5	3.0	13.0	5.0	×	6.0	7.5	10.5	27	70	38	32	33	30	24	24	8.0	4.5	6.0	×	6.0	5.0	4.5

- 10) 永川：骨関節結核の病勢と赤血球沈降速度 日本整形外科学会雑誌 21巻4号, 64 (昭23. 1)
- 11) 松岡：骨関節結核並に慢性関節ロイマチス患者に於ける赤血球沈降速度の臨床價值 実験医学 298, 1320 (昭14. 8)
- 12) 永井：骨関節結核のストレプトマイシン療法 日本医事新報 No. 1385-8 (昭25 )
- 13) 西川：内科診察の実際
- 14) 島田，土橋：外科領域におけるストレプトマイシン療法 治療31巻9号, 524
- 15) 田中：骨関節結核に於ける最終血沈 日本整形外科学会雑誌 22巻4号, 78 (昭24. 1)
- 16) 八塚：ペニシリン療法と全身症状殊に骨関節結核の混合感染の治療について 日本医事新報 No. 1377 (昭25 )
- 17) 日本整形外科学会雑誌 Vol. 24. Nor. 1950, No. 45

(表 I) は折込み。

(表 II) 全平均

	前	1週	2	3	5	7	退
赤血球(万)	351	307	357	376	401	423	431
血色素量	73	64	75	79	82	86	87
色素係数	1.01	1.04	1.04	1.05	1.03	1.02	1.00
白血球	6100	5300	5700	6200	6000	6500	6700
好中球	60.0	55.7	53.1	50.5	55.2	51.2	55.0
メタ桿状	31.0	31.1	26.3	25.7	28.2	25.2	24.8
杉山氏平均核	1.58	1.52	1.63	1.60	1.61	1.63	1.70
淋巴球	29.6	33.6	32.9	35.5	28.8	32.6	31.1
大, 中淋巴	11.9	12.1	12.1	12.9	11.2	10.6	10.0
エオジン	5.4	6.7	6.4	9.3	9.8	11.3	8.1
單球	4.5	4.0	4.7	5.0	3.8	4.3	4.5
N/Ly	2.0	1.6	1.6	1.4	1.9	1.5	1.7
赤沈	前 29	1週 65	2 43	3 32	4 27	5 25	6(退) 15 14

(表 III) 軀幹平均

(表 IV) 四肢平均

	前	1週	2	3	5	7	退	前	1	2	3	5	7	退
赤血球(万)	334	312	338	357	398	442	435	358	306	367	390	403	424	433
血色素量	75	64	72	78	80	87	87	73	64	77	79	83	85	87
色素係数	1.11	1.03	1.07	1.09	1.02	1.05	1.00	1.02	1.04	1.05	1.01	1.03	1.00	1.00
白血球	5200	5400	5600	6200	5800	6700	6800	6400	5700	6300	6200	6100	6400	6700
好中球	62.5	56.7	56.9	49.0	55.4	52.3	56.6	59.1	55.3	51.5	51.0	55.1	50.4	55.0
メタ桿状	32.7	30.4	29.1	27.8	28.6	22.8	24.5	30.3	31.4	25.1	34.9	28.1	27.1	24.8
杉山氏平均核	1.51	1.49	1.58	1.50	1.60	1.71	1.72	1.60	1.52	1.66	1.63	1.62	1.58	1.70
淋巴球	26.9	31.2	30.1	35.0	28.9	32.5	31.2	30.6	34.4	36.9	36.3	28.8	32.8	31.1
大, 中淋巴	13.2	13.9	13.1	15.3	11.6	7.6	9.3	11.4	11.5	11.7	12.2	11.0	12.8	10.4
エオジン	6.3	9.1	6.2	10.2	10.5	10.3	7.1	5.0	6.9	7.0	9.0	9.5	11.9	8.4
單球	4.1	4.9	6.1	5.5	4.1	5.0	4.6	4.6	3.7	4.1	4.8	3.7	4.0	4.5
N/Ly	2.3	1.8	1.8	1.4	1.9	1.6	1.8	1.9	1.6	1.3	1.4	1.9	1.5	1.7
赤沈	前 40	1週 71	2 54	3 41	4 35	5 26	6(退) 15 8	前 25	1 62	2 39	3 30	4 24	5 25	6(退) 17 12

(表V) 瘰癧, 膿瘍の有無による  
貧血及び赤沈値の比較

番号	(有)			番号	(無)		
	赤血球(万)	血色素	赤沈		赤血球(万)	血色素	赤沈
1	329	72	42	2	334	75	18
3	314	67	30	4	414	87	13
5	319	78	55	7	387	85	38
6	295	70	80	8	340	65	16
9	320	75	33	11	406	80	32
10	354	75	19	13	405	88	8
12	268	60	73	15	382	82	31
14	385	80	36	19	327	79	37
16	384	87	6	22	338	78	27
17	340	70	12				
18	420	90	3				
20	344	78	23				
21	330	72	10				
平均	338	75	32	平均	364	80	24

(表VI)

(イ) 貧血回復の順調な経過をとる3例  
番号 10)

	術前	1週	2	3	5	7	退	
赤血球(万)	354	312	354	388	399	430	475	
血色素	75	68	75	75	70	75	85	
赤沈	前19	1週34	226	319	48	59	66	退6

(ロ) 貧血回復の経過の長引く例

(ロバートソン, ラパール氏手術施行)

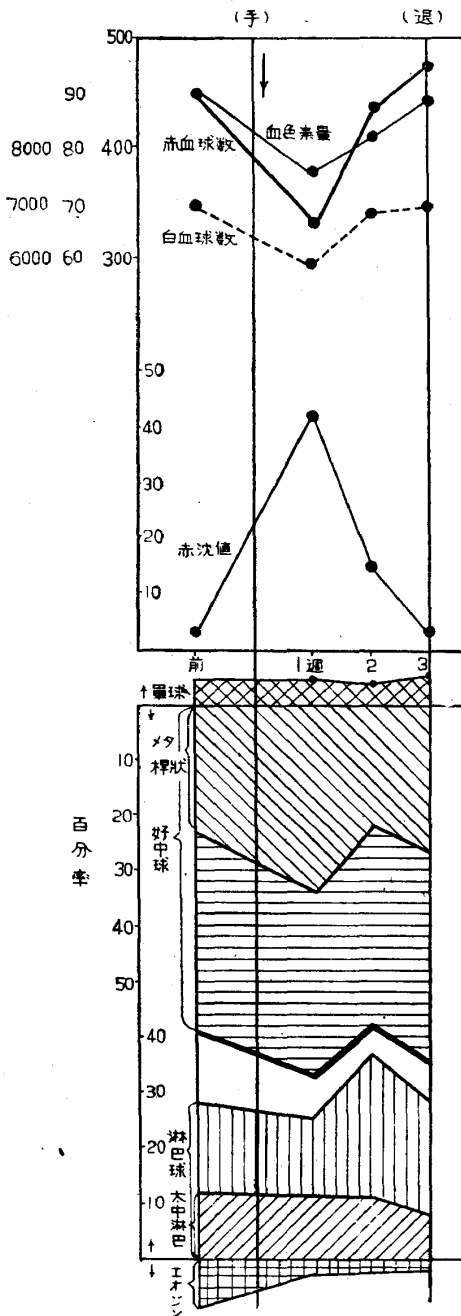
番号 8)

	術前	1週	2	3	5	7	9	11	13	15	17	退	
赤血球(万)	340	303		419	447	439	445	423	433	418	443	460	
血色素	65	62		73	80	85	86	83	85	80	83	85	
赤沈	前33	1週60	239	315	410	58	66	715	910	1115	1328	1516	17退9

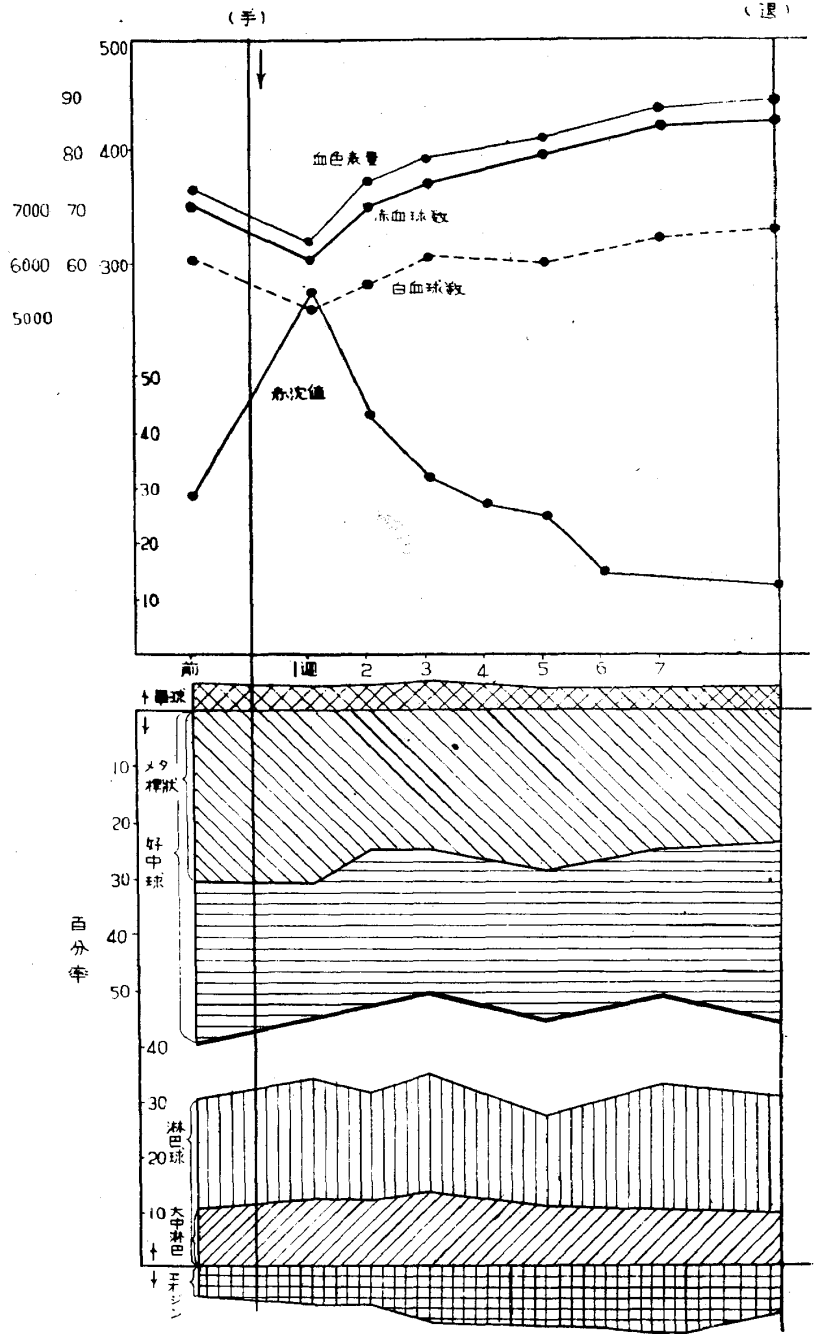
(表VII) 対 照

	前	1	2	3(退)
赤血球(万)	450	341	440	480
血色素量	90	77	83	88
色素係数	1.00	0.98	0.94	0.98
白血球	7000	6000	6900	7000
好中球	58.5	67.0	57.0	66.5
マタ桿状	23.5	33.0	20.0	25.5
杉山氏平均核	1.89	1.58	1.96	1.87
淋巴球	27.5	26.0	38.0	29.5
大, 中淋巴	11.5	12.0	11.0	9.0
エオジン	9.0	2.0	1.0	1.5
單球	5.0	5.0	4.0	5.0
N/Ly	2.1	2.5	1.5	2.2
赤沈	2.5	42.5	16.0	4.3

(表 VI) 対照



(表 VII)



骨関節結核病巣廓清術前後の肺所見

京都大学医学部整形外科学教室 (主任: 近藤鏡久教授 (京都大学結核研究所長))

森 益 太

古くは骨関節結核患者には胸部結核性所見が極めて稀であるとも云われ、骨関節結核は肺病巣に対して好影響を與えるものと説く学者さえ存在している。

結核病理学の進歩は個体に於ける結核症進展の機序を明かにした結果、骨関節結核症は二次的結核症として所謂 Ranke の第2期或は其れ以後の時期に於いて発生するものであると考えられる。結核